

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立玉川中 学校

校長名 永桶 千秋

- 厚木市教育委員会の基本目標
- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
 - 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
 - 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

学校教育目標

学校経営の方針

明るく：共に支え合う明るく人間性豊かな生徒を育成する
 正しく：正しい理解と適切に判断し行動できる生徒を育成する
 逞しく：自己の未来を切り拓く逞しい心と身体を育成する

「明るく」共に支えあう明るく人間性豊かな生徒を育成する。
 「正しく」正しい理解と適切に判断し行動できる生徒を育成する。
 「逞しく」自己の未来を切り拓く逞しい心と身体を育成する。

今年度の重点目標

①授業改善を中心とした学習指導の充実

- ・授業のねらいを明確にし、どのような力を身につける時間か生徒が実感できる授業を展開する。
- ・学習意欲の向上、主体的な学習に結びつく課題の設定、振り返りの方法について各教科で研修を深める。
- ・ユニバーサルデザインの視点にたって、どの生徒にとっても意欲を持って取り組める学習環境、授業展開を工夫する。
- ・GIGAスクール端末やICT機器を効果的に活用することで、ねらいにそった学習形態を工夫し、探求型学習を行う。
- ・生徒自らが自分の学習状況を把握し、学習意欲の向上につながる学習評価となるよう評価の仕方について各教科で研修し、共通理解のもと実践する。

②インクルーシブ教育を継続し、自他ともに大切にできる人権教育の推進

- ・不登校生徒対策に重点を置き、個々の生徒に寄り添った支援体制を図る。特に、不登校の未然防止と早期対応に努める。
- ・生徒との信頼関係をさらに深め、生徒・保護者にいつでも相談できるという安心感をもたらす教育相談体制の見直しを図る。
- ・学校全体で生徒・保護者に対応するという意識を持ち、常に連携体制を図る。
- ・個別支援の充実、リソースルームの効果的な運営を図る。
- ・特別支援学級との連携を図り、一人一人のニーズに応じた適切な支援教育を推進する。
- ・スクールカウンセラー・こころスマイル支援員など校内の人的資源や関係機関との連携を図り、個にあった支援体制をともに考え、実践する。
- ・あいさつ、礼儀、言葉遣いなど社会に通用する生徒を育成することを生徒指導の基本とする。

③家庭・地域との連携を深め、生徒が地域を愛し、環境を守ろうとする地域との協働

- ・コミュニティスクールを基盤とした学校づくりを推進し、地域から応援され、愛される学校づくりを推進する。
- ・学校安全の意識を高め、自らの命を大切にする指導を行う。
- ・自助・共助・公助を意識し、「いざ」というときに適切な判断と行動ができる生徒の育成を図る。
- ・環境を守ろうとする意識と行動力を育てる。
- ・学校公開や情報公開の場を多くし、社会に開かれた学校をめざす。定期的な学校評価を行い、継続的な学校改善に取り組む。
- ・ホームページや学校だより等、家庭・地域への情報発信に努め、学校への理解を推進する。
- ・学区内の小学校との連携を図り、9年間を見通した教育課程の編成を図る。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「生きる力」を育むため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの力をバランスよく育む指導方法の工夫と改善	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室の開室(かわせみ学習室) ・話し合い、教え合い活動の充実 ・定期試験前の学習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教科担当が授業形態や使用する教材を工夫した。GIGAスクール端末を活用しての授業工夫に今年度も全職員で取り組み、校内で研修を重ねた。生徒の学校評価への回答では、「わかりやすい授業」の項目に約87%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・家庭学習の習慣が身に付いてきたかの質問が、令和6年度76%→令和7年度約70%と減少した。学校運営協議会では、家庭学習に塾は含むか、保護者との認識のずれなどの話し合いもされた。 ・補習や自習室の開設、定期試験前の学習会などで、学習機会を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自習室(かわせみ教室)を、できるだけ多く開室し、活用を促す声かけなどの取組を行う。 ・試験前の生徒の自主的な学習に対し学習会での支援を継続する。 ・校内の研修により、職員全体の授業力の向上を図る。
生徒の主体的な取り組みを推進する生徒会活動の活性化	1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な活動を支援する場面を増やしていく。 ・生徒の話し合い活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事に自主的・意欲的に活動できたと思いますか？」という質問に対しては、約93%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・生徒会本部を中心に、運営協議委員とのミーティングの開催など、新たな取組ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒主体の取組を促し、充実感・達成感を味わわせる機会を充実させる。 ・各活動のねらいや目標を明確化し、それに向けた職員間の情報共有の充実を図る。
生徒理解・生徒支援・生徒指導の充実	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的(週1回)の生徒支援、生徒指導に関する情報交換の時間を設定し、内容の充実に努めた ・支援の必要な生徒の個別支援計画の作成 ・生徒指導支援グループメンバーを中心とした、支援体制とケース会議の充実 ・積極的な生徒指導を心がけた ・生徒指導担当を中心に、職員への情報共有を心がけた 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「いじめ防止」にむけての取組を継続して行うことができた。生徒たちは真剣に討議し、誰もが安全、安心に生活できる学校づくりのための目標を、それぞれの学級で立てることができた。 ・スクールカウンセラーやこころスマイル支援員との連携を図り、支援の必要な生徒に対してのきめ細かな支援体制をつくった。 ・週1回の指導部会・支援部会において、学年間の連携を図りつつ、適切な指導を心がけた。 ・「教育相談」「生活ノート」「月の反省」などを通して、生徒とのコミュニケーションを図り、生徒理解につとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の生徒指導部会、支援部会の継続 ・年2回の生徒指導支援研修会の実施を継続 ・生徒指導担当を中心にした情報共有と素早い対応を心がける ・道徳、学級活動を中心に、それぞれの場面を通して、「いじめ防止」の取組のを継続 ・各学期はじめの教育相談に加えチャンス相談の充実により、生徒理解を向上させる ・月の反省の継続。その後の対応を素早く行うことを徹底する

地域、保護者との連携、コミュニティスクールの運営	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の充実 ・地域指導者との連携と地域行事への積極的な関わり ・ホームページや学校だよりなどで、学校の様子を地域へ発信 ・PTAとの協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区小学校との連携(小中の授業参観など)を継続して行った ・森の里中学校区を含む5校連携した防災訓練を実施 ・職場体験学習は、2日日程で実施できた。学校運営協議会と連携し、体験先を決め、地域との関わりを保つことができた。 ・「かわせみ応援団」という保護者による学校応援組織と連携して、今年度も教室のドアのペンキ塗りを実施することができた。また、例年実施している、PTA除草作業も継続して行うことができた。昨年に引き続き、3年生の卒業前の奉仕作業にも参加していただき地域との関わりを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの充実した運営 ・令和7年度から、日程を早めて実施。(5校合同引き渡し訓練4月30日)
安全な環境づくりと防災意識の啓発	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルを生かした安全体制の確立 ・無通告の防災訓練や、逃げ遅れた生徒がいる想定訓練を行った ・日々の清掃活動の充実 ・教科横断的な学びによる安全意識の向上 ・毎日の下校指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については、随時真剣に取り組み、それぞれの状況においての行動パターンを学習することができた。 ・基本、1日おきの清掃活動を実施。 ・普段の授業や、日々の出来事から安全についての指導の機会を逃さず行った。 ・下校時間の早い日の地域パトロールや、日々の下校指導により、生徒の安全な下校に務めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の継続した実施と、マニュアルの見直し ・日常の防災関連の点検の充実 ・清掃活動、緑化活動の生徒の自主的活動の推進 ・安全点検の確実な実施
人権意識の高揚とインクルーシブ教育の推進	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間のポスター掲示や人権作文の放送 ・インクルーシブ教育の実践と取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間には人権コーナーを設置し、掲示で啓発を行った。日ごろから各場面において、人権について考えさせる環境づくりが必要だと感じる。また、人権週間には昼の放送で人権作文の朗読を生徒が行った。 ・リソースルームを活用できた。インクルーシブ教育担当の非常勤講師による個別支援及び教室支援を充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中での人権意識を高めるための工夫の継続 ・「性的マイノリティ」への理解を図ることを継続。 ・校内人権週間の継続 ・いじめ防止の取組の継続
ICT機器の効果的な活用についての研究の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器(GIGAスクール端末)の活用法の教え合いと実践を継続できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科でどのようにGIGAスクール端末を活用できるのかなど、校内での教え合いの取組ができていた。ただ、教科によって、教員の技量による差があるため、今後も研修の継続が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の教え合いなどで、教員側のICT活用能力のさらなる向上、研鑽を目指す。 ・推進校などの参考となる実践についての情報を収集し、校内で参考にする。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度も学校運営協議会を開催し、報告を行うことができた。そこでは、職場体験の体験先への協力など、好意的なご意見をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

多くの項目で肯定的な意見が多い状態であるが、一人でも多くの生徒が安心・安全に学校生活ができるよう、それぞれの分掌でできることを考えて日々意識して取り組めるようにしていきたい。